

地域の中高年男性をどう助け合い活動に引き込むか

提言

男性が地域の活動に参加していくための7か条とそれを支えるカギ

- ・ 男性の活動には社会的意義が必要…生産性と役割
- ・ 男性の活動は形から入る…かっこいいことが重要
- ・ 男性の活動はしゃべらなくてできることがあることが大切
- ・ 男性の活動は縦社会ではない
しがらみのないことが大切
- ・ そもそも男と女は違う 違いを認めてほしい
男は目的のために集まる
- ・ 広報の方法が大切
そもそも新聞は読んでも回覧板は見ない
- ・ 学習から入ることも大切
→その陰には褒め上手の女性の力がカギ

登壇者

【進行役】

| | |
|---------|-----------------------|
| 勝部 麗子氏 | (社福) 豊中市社会福祉協議会福祉推進室長 |
| 大下 勝巳氏 | おやじの会「いたか」世話人 |
| 加藤 由紀子氏 | (特非) ふれあい天童理事長 |
| 戸谷 友隆氏 | 豊中あぐりプロジェクト運営委員会運営委員 |
| 初鹿野 聡氏 | (特非) みんなのくらしターミナル代表理事 |
| 原藤 光氏 | 「おんどりクラブ」会長 |

■ 議事要旨 勝部 麗子氏

今回のサミットの大きなテーマの一つが定年後の男性がなかなか地域に出てきてくれない…という問題でした。出てきてくれたらと思うと競争社会で生きてきたわけですから、横並びの地域活動に効率性などを持ち込み、なかなか馴染んでもらえない。私たちの周りでは、地域活動の担い手であった女性たちが、夫の定年とともに地域活動を卒業する姿を多く見受けました。「えっ、お宅のご主人定年?」「そうやねん。…朝ご飯食べたら、昼ご飯はいつや。晩ご飯は?と。苦痛やわ」と。しかし考えてみると、高度経済成長時代の団塊世代以上の男性たちは、生活のすべてを仕事に捧げてきて、定年退職と同時にいきなり地域コミュニティに放り込まれました。いったいどこでどうつながって行けばいいのか、その道筋はこれまでほとんどなかったのですから、戸惑っても当然と言えます。この分科会では活躍する5つの団体から男性が活動に参加していくヒントをお話いただきました。

『おんどりクラブ』会長の原藤光さんは「料理をすること、食べること、そして喜んでもらうことが楽しい」と報告。独自の帽子やエプロンを用意し、「ちょっとかつ

こいいワクワク感が男性の参加のポイント」と話しました。

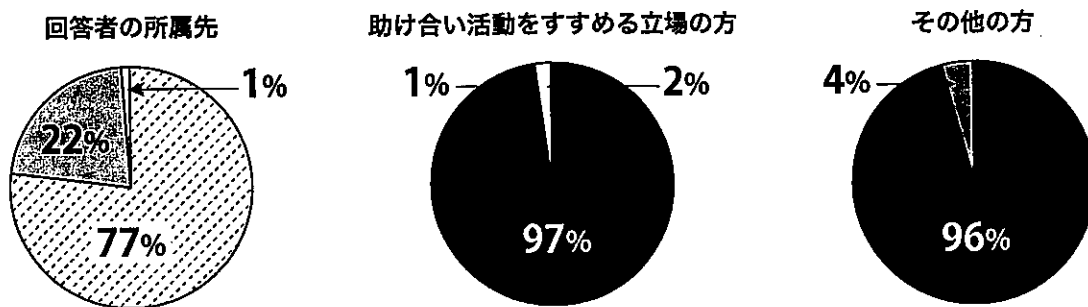
『おやじの会「いたか」』世話人の大下勝巳さんは「難しいことは考えず、自分でできること、やりたいことをやって地域の役に立つ。この循環が大切で、自己実現は他己実現から。仲間づくりと出番とが大切」と話しました。

『みんなのくらしターミナル』代表理事の初鹿野聡さんは、「女性は集まること自体が楽しみで目的になる。男性は目的のために集まります。その違いを理解することが大切。男性は社会的課題にかかわる意義が明確なほうがよい」と語りました。

都市型農園を社会参加の場として活躍する『豊中あぐり』の戸谷友隆さんは、「手伝ってほしいと声をかけられたことから、次々と人間関係が広がっていった」と。

最後に『ふれあい天童』理事長の加藤由紀子さんは「褒め上手の女性の力が大切。助け合いに参加する男性には言いすぎるくらい感謝の気持ちを伝えていきます」と語りました。

アンケートの結果 参加者概数：380名 回答者数：217名



■ 寄せられた声から

- それぞれとてもよかった。
- 勝部さんの問いかけが、実践的であった。男女交際の場（つどい場）を考えています。「おやじの会」「九州つなぎ隊」これは参考になった。「役立つ」は、キーですね。この分科会、楽しく力になった。
- 女性がポイント。男性はフラットな状態を好む？

The 男組

「男の手打ちうどん講座」を受講した、プラチナ世代の男性を中心に「The 男組」を立ちあげた。「楽しみながらできる範囲で地域社会へ貢献すること」を理念とし、世代間交流や買い物のお手伝いなど各所で活躍中。

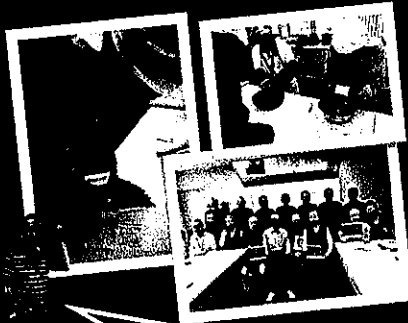
「男の手打ちうどん講座」の思い出

わたしたち参加者ひとりひとりの夢を叶え、できることをできる範囲で楽しみながら、地域社会に貢献します

ざ おとこ ぐみ
 大阪市平野区
The 男組

The 男組とは、大阪市平野区の60歳以上のプラチナ世代の男性を対象とした定年退職後のいきいきと輝くセカンドライフを応援するグループです。

きっかけ (平成30年10月~11月)
 「男の手打ちうどん講座」



初めてでもおいしい
 うどんができましたん

グループの発足 (平成30年12月)
 「これからの活動を考える会」

- 気軽につながれる場が大切!
 後員や出欠などのしほりかない、自由に参加できる「ゆるいつながりの場」があればいいね。
- 夢を語りあえる場
 ・料理を「誰かにふるまう」機会もつっていきいたいね。
 ・災害時にうどんを提供してあげたい。
 ・目的をもって社会に貢献していきたい!

挑戦したいことが
 たくさんありませんん

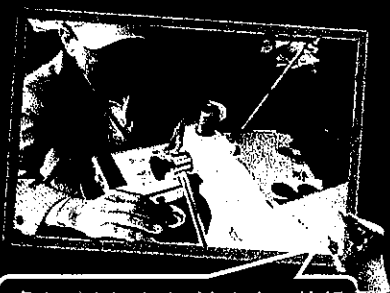
定例会の開催 (平成31年1月~)

「毎月第4木曜日 10時~12時」



テーマソングをつくったり
 毎回賑やかにやってまっせ

世代間交流 (平成31年4月)
 「写真入り缶バッジ」のプレゼント



喜んでくれる子どもたちの笑顔
 で疲れもふっとびますわ

野菜の移動販売 (令和元年5月)
 「買い物のお手伝い」



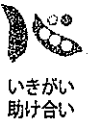
荷物運ぶのは大変やったけど、
 困ったときはお互いさまやで

The 男組の約束ごと

- 1 誰でも来はったらいいねん (出入り自由)
- 2 めんどくさい会則はつくらへん
- 3 ここではみんな、とんとんの関係やて
- 4 かんはって広報して活動を拡げていきまっせ
- 5 いらんことはしゃべりません (フライパンーなど)
- 6 「The 男組」はみんなて運営しまんねん

ルールも男組らしく
 みんなで決めましたん

事務局 社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会 (平野区居場所づくりプロジェクトチーム会議:協議体)
 所在地 大阪市平野区平野東2-1-30 ☎ 06-6795-2525



赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下で始まった赤いベンチの設置を広げる活動。高齢者にいつまでも元気でいてほしいと願いを込めて始めた取り組みが様々な効果を生んでいます。

買い物支援・介護予防・新たなコミュニティ・防犯・相談窓口の周知
たくさんの効果をもたらす

大阪市城東区関目校下



赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下。人口はおよそ9300人。昔ながらの長屋、集合住宅、新築のマンション、警察学校等、区画整備されたエリアに建物が密集し、地域の中心には公園があります。昔懐かしさと新しさが共存する地域で、赤いベンチを設置する取り組みが始まりました。

きっかけは…骨折？

発案者は民生委員や町会長として活動する岡本さん。ある日、足を骨折し、外出に苦労しました。「足の不自由な方や体力が低下してくる高齢者はこんな大変な思いをしているのか…」と実感。地域の中にベンチがあれば、助かる人が増えるのではないかと思い、関目地域活動協議会会長の十亀さんや、地域で高齢者支援をおこなう地域福祉支援員の木原さんに相談しました。

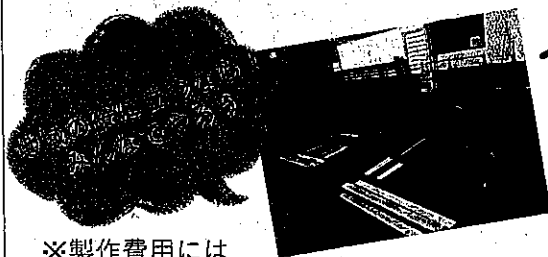


ベンチには地域包括支援センターのステッカー

地域内にスーパーは1か所。

スーパーに行くことをあきらめて宅配や配食サービスを利用する高齢者が増えてきていました。外に出る機会が少なくなったら体力も気力も落ちる。自分の足で買い物に行くこと・外出することは生活のハリにもなる！誰かが座ることで防犯の効果もあるベンチの設置は最適かもしれない！

さまざまな効果を確認し、地域住民の賛同を得て、地域を挙げての取り組みに発展していくこととなりました。



※製作費用には
区社会福祉協議会の
善意銀行助成金を活用

ベンチはすべて地域の男性の手作り

設計から、材料調達、製作まで、すべて関目校下の男性陣が中心におこなっています。大工さんを中心にみんなで協働し、一つ一つ製作しています。

買い物途中の高齢者、
学校帰りの子どもたち、
お昼休憩中のサラリーマン、
いろんな世代の方が
座り交流の場に。

できることをサポートする仕組み

取り組みをサポートする木原さんは「何かをしてあげよう、用意しようとするのではなく、本人が自分の力でできることをサポートすることが大切。」と語ります。「できなくなったからすぐに便利なサービスを利用する」ではなく、「どんなサポートがあれば今まで通りの暮らしが続けられるか」。赤いベンチプロジェクトは、本人の強みに視点をあてた取り組みです。

2019年5月現在、ベンチの数は18箇所。地域の強みを存分に生かし、おもしろいの輪が広がっています。

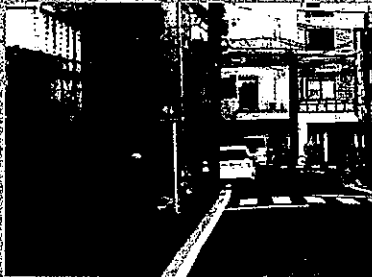


百歳体操終わりに団らん

おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で

住宅地に高齢者のおでかけを支援するベンチを高齢者たちの手でつくっています。

おでかけベンチ・とまり木ベンチを地域・高齢者の手で！

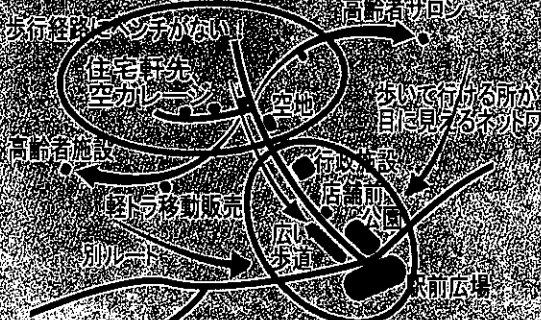


道に座り込んで、道で立ったまま休んでいる高齢者を見かけませんか？
体力・筋力の低下、着脱着脱困難、履物の予後、途中、やすみやすみできないとおでかけできない方が増えています。
ところが、駅から離れ、お店の少なくなる住宅地では、歩道もなくベンチが置ける公共用地はありません。

京都市伏見区深草・藤森・藤城・桃山東各学区
醍醐いきいき市民活動センター
西京区川岡・椋原各学区



住宅系市街地



本プロジェクトは、個人宅の軒先、使わなくなったガレージ、高齢者施設等の敷地内、の道に沿ってベンチを置いて、住宅地からの高齢者のおでかけを支援する試みです。

設置までの手順

1. 勉強会（住宅地にベンチがあるとなぜよい？）
2. プランニング（置く所がないか？）
3. マップ作成（2の結果をマップにしよう）
4. 設置依頼（地域のいろいろなところをたどってお願ひしよう）
5. 予算捻出（関係者寄付、区民活動支援事業）
6. ベンチデザイン（製作、男性高齢者も出番、大学も助け）
7. お披露目（イベントや広報で自由に座れることを周知）
8. 活用術（これから検討）

- 取組の参加者（学区ごと）にチームの構成が異なります！
- 深草学区／2015～／深草「竹やぶらぎの会」
 - 深草商店街／社会福祉協議会、深草竹の会、藤業会、大岩、毛瀬川サロンの会、おやし、小学校、市まちづくりアドバイザー、いきいき生活応援センター、うさぎ、チーム街コミ、NPO、竹と緑
 - 藤森・藤城学区／2018～／とまり木実行委員会（＝地域ケア会議発）
 - 各学区自治連合会、社会福祉協議会、民生児童委員会、ケア事業者、市まちづくりアドバイザー、地域支え合い活動創出コーディネーター
 - 深草・南部地域包括支援センター
 - 桃山東学区／2018～／桃山東支え合いの会（高齢者自立支援ボランティア）
 - 自治会連合会、民生児童委員会、社会福祉協議会、自主防災会、ケア事業者、市まちづくりアドバイザー、地域支え合い活動創出コーディネーター
 - 上記4学区は隣り合ってるので歩いて行けるところが広がります！
 - 醍醐いきいき市民活動センター／2018～／生き活プロジェクト
 - チーム街コミ、プロジェクト参加者個人、センター職員
 - 川岡学区／2017～／自治連合会内ベンチプロジェクト
 - 民生児童委員会、老人会、社会福祉協議会
 - 椋原学区／2019～／個人

*上記いずれのプロジェクトにも京都大学吉田研究室協力



18.9 設置候補検討 18.10 藤城ケア会議



18.11 深草 18.10 深草ふれあいプラザ



18.5 深草個人宅ガレージ 18.11 藤森町家軒先

C 助け合い活動の創出
①居場所 サロン 通いの場

男性の笑顔が地域を支える

～シニア世代の男性の社会参加・仲間づくりを応援！～

男性限定の講座を開催することで、地域ニーズである「男性の地域活動への参加」と「地域の担い手づくり」を同時に実践！講座の参加者でつくったグループは、いまでは地域のイベントになくてはならない存在です。

【京都市地域支え合い活動創出事業】

＜作成：京都市／社会福祉法人
京都市社会福祉協議会＞

男性の笑顔が地域を支える

～シニア世代の男性の社会参加・仲間づくりを応援！ 男性による地域の支え合い活動が広がる～

京都市では高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、関係者のネットワーク構築を行うコーディネーターを各区社会福祉協議会(12名)に配置しています。



背景・
きっかけ

- 定年退職後に居場所がなく、地域で孤立する男性が増加している。
- 地域活動・イベント等に圧倒的に男性の参加が少ない。
- 男性に声をかけても、なかなか参加につながらない。

地域支え合い活動
創出コーディネーター

地域ケア会議や調整会議(協議体)で、地域住民、関係機関と『男性の社会参加』を地域課題として共有。課題解決に向けて、取り組みをすすめた。

「下京男塾」を企画・開催

—意識した働きかけポイント—

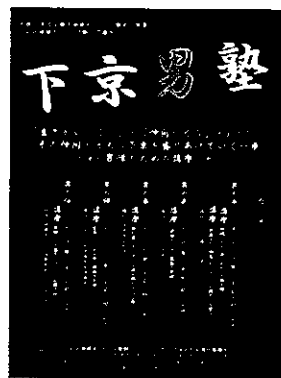
✓「生きがいがづくり」

地域のためだけでなく、個々のやりがい・生きがいにもつながるよう、男性の関心が高い内容で知識や技術が習得できる講座を企画・開催した。

✓「仲間づくり」

受講後に仲間とともに地域活動を開始することを目指して、単発ではなく、連続講座とし、顔のみえる関係性を構築できるよう工夫した。また、講座で学んだ内容を即実践できる機会を設け活動のイメージができるようにした。

➡ 受講後・・・「仲間とともに、
地域のために活動しよう！」と



任意グループ
「下京男塾」結成！



(珈琲講座)



(料理講座)



(写真講座)



(運動講座)



できることから、
始めてみよう！



*メンバー24名
平均年齢73歳
(上は80歳 下は61歳)

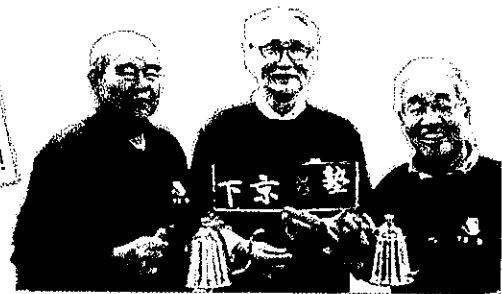
活動スタート

- ① 遊ぶ！学ぶ！ 居場所活動
- ② 地域に貢献する！ 珈琲ボランティア活動



これからも
人のためにも
活動して人生
充実させるぞ～！

講師役！



←右京区の「昭和おやじのちょっとやってみよう講座」で楽しさを伝授。
その後「右京気ままおやじ会」が結成され、活動が広がっている。

① 助成金の活動の創出

② 特別な切り口